

令和４年度 第４回 名古屋市環境影響評価審査会
会議録

1 開催日時

令和４年 12 月 13 日（火）午前 10 時～12 時

2 開催場所

市役所大会議室（東庁舎 5 階）

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止を図るため、審査会委員は WEB 会議システムにより参加

3 出席者

(1) 審査委員（五十音順、敬称略）

青木	聡子	（名古屋大学准教授）
石井	仁	（名城大学教授）
市野	良一	（名古屋大学教授）
片山	直美	（名古屋女子大学教授）
佐野	泰之	（愛知工業大学教授）
鈴木	康弘	（名古屋大学教授）
田代	むつみ	（名古屋大学特任講師）
都竹	愛一郎	（名城大学教授）
夏目	知道	（愛知県立芸術大学准教授）
橋本	啓史	（名城大学准教授）
藤田	素弘	（名古屋工業大学教授）
洞澤	秀雄	（南山大学教授）
増田	理子	（名古屋工業大学教授）
横田	久里子	（豊橋技術科学大学准教授）

計 14 名

(2) 事務局 地域環境対策部長始め 5 名

(3) 傍聴者 3 名

4 議事及び意見等の要旨

事務局より、今回の審査会の出席者が 14 名であり、審査会が成立していることを確認した。また、本日のスケジュールについて簡単に説明した。

〔事務局〕 大江川準備書の手続きの状況でございますが、9 月 6 日から 10 月 20 日まで、準備書に対する市民等の意見の提出を受け付けておりまして、2 件の意見の提出がございました。

これに対しまして、事業者の見解を記載した見解書が、11 月 29 日に提出され、12 月 8 日から 22 日までの間、市民の皆様へ縦覧を行っているところでございます。

この見解書は、委員の皆様にも送らせていただいたところでございます。

また、見解書について、環境の保全の見地からの意見を聞くための公聴会につきましては、12 月 8 日から 1 月 6 日まで、陳述の申し込みを受け付けております。申し込みがあった場合には、1 月 28 日土曜日に港区の大江破碎工場内の集会室で公聴会を開催する予定となっております。

次に本日の審査会の流れでございますが、第 3 回までの質問と回答及び見解書を最初に、ご説明させていただきます。

そのあとに、環境項目のうち、水質・底質、地下水、地盤、水循環についてご審議をお願いしたいと思っております。

それでは、以後の取り回しは市野会長をお願いいたします。

議題 大江川下流部公有水面埋立てに係る環境影響評価準備書について

[会 長] それでは、議題「大江川下流部公有水面埋め立てに係る環境影響評価準備書」についての審議に入りたいと思います。

まずは、資料「令和4年度第3回審査会までの質問と回答」について、事務局から説明をお願いいたします。

[事務局] (資料について説明)

[会 長] ありがとうございます。ただ今の説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたら、遠慮なくお願いいたします。

[会 長] 騒音・振動で地域住民に不快感を与えないで、しっかりコミュニケーションをとってくださいとの意見があったかと思いますが、事前に丁寧に説明する、また、コミュニケーションを取りますという補足説明だったかと思いますが。やはりそこは大切かと思うので、怠らないようにやっていただきたいと思います。

[委 員] 前回、出席できなかったのですが、大型車の安全性、騒音、振動などご議論されている中で質問なのですが、誘導員の配置はどのような検討をされていますか。

[事務局] 安全性の項目で、環境保全のための措置として、「工事関係車両の出入口付近では、視認性を良好に保ち、交通誘導員を配置することにより、工事関係車両の徐行及び一時停止を徹底させる」としております。

[委 員] 特に、児童の登校・下校の時間帯とか注意してほしいと思います。

[事務局] 特に地元の方からもご意見が出ているルート4でございますが、通学路になっておりますので、誘導員等を配置してしっかり安全性に努めるよう、事業者に伝えさせていただきます。

[会 長] 次の議題に入りたいと思います。続いて先日事業者より提出されました見解書について、事務局から説明をお願いいたします。

[事務局] (見解書について説明)

[会 長] ただいまの見解書の説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたら、お願いいたします。

[会 長] まだこの先、大気質、騒音等準備書の説明が終わった箇所につきましても、ご質問等ありましたら、事務局にご連絡いただければ、よりよいものになると思いますのでお願いします。また、本日以降ご審議いただく項目につきましても、その折に触れていただいても構いませんので、委員の皆様よろしくをお願いいたします。

[会 長] 続いて、準備書の水質・底質のうち、工事中について事務局より説明をお願いいたします。よろしくお願いします。

[事務局] (水質・底質－工事中について説明)

[会 長] ただいまの、ご説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたら、遠慮なくお願いいたします。

[委 員] 準備書 222 ページに水質分析結果が記載されておりますが、pH、全窒素、全燐、亜鉛等で基準を超過していたかと思います。基準超過の理由はどのように考えておられるのでしょうか。

[事務局] 準備書の中で見解は述べられておりませんので、事業者を確認させていただきます。

[委 員] 掘り出した土は袋に詰めて、埋め戻すというご説明でした。袋を積み上げていく方が崩れやすいのではと感じましたが、いかがでしょうか。

[事務局] 資料中にある袋詰め脱水処理工法、準備書ではエコチューブ袋と記載しておりますが、かなり頑丈に作られているということで、建設機械でつり上げて破れないぐらいの強度は持っております。そのため、ある程度積んでも崩れないとは聞いており、また、ボックスカルバートの側面に積んでいくので、あまり崩れないように施工するかと思います。

積んだ際の安全性等については、事業者を確認させていただきます。

[委 員] 袋の耐用年数はどの程度を想定していますか。

[事務局] 袋詰め脱水処理工法の袋の耐用年数についてご質問いただきました。埋め戻しますことで、半永久的にその状態を保つことになるかと思います。資料には耐用年数等記載がありませんので、事業者を確認させていただきます。

[委 員] 有害物質排水処理施設までの排水管の経路は未定ということですが、どのような材質を使用する予定でしょうか。処理施設までの漏水の危険性についても検討する必要があるかと思います。

[事務局] 材質も検討中かと思いますが、有害物質を含む排水を通す管ですので、漏洩しないようしっかり対応していただきたいと思います。素材等どこまで検討が進んでいるのか、事業者を確認させていただきます。

[委 員] 現状 pH が高いという調査結果になっておりますが、その要因について検証が必要かと思います。今後、コンクリート製のボックスカルバートを通して排水することで、pH がさらに高くなる恐れがあるかと思います。

[事務局] 現状、普通の河川として流下している中でも pH が高くなっているということで、現状の認識及びコンクリート製のボックスカルバートを通して pH を押し上げる要因になるのではないかとといったことに対して、事業者の見解を確認したいと思います。

[会 長] 私もこの袋が気になっていて、資料中の排水のメカニズムで、排水される時に内部の泥で穴が塞がれ、泥の膜が有害物質を吸着するという説明ですが、その一手手前の初期状態は汚染物質が含まれているという理解でよいのでしょうか。

これまでに使用された実績があるとのことですので、排水のデータなどがあれば見せていただきたいと思います。

[事務局] 事業者からは、初期の排水にはある程度の有害物質が含まれる可能性があるという聞いておりますが、その排水はそのまま河川に放流するのではなく、有害物質排水処理施設で処理してから排水すると聞いております。その後、ある程度落ち着いてから、埋め戻す計画と聞いております。

また、ご質問ありました排水の結果については、事業者を確認させていただきます。

[会 長] 初期の排水を有害物質排水処理施設で処理するという計画はよいかと思いますが、処理施設は 1 箇所のみ設置する計画だったかと思います。その処理能力は十分なのでは

うか。処理能力が不足していると、工事が中断してしまう危険性もありますのが、どれぐらいの処理能力の施設を設置する予定なのか分かりますか。

[事務局] 有害物質排水処理施設の処理能力、規模についてご質問いただきました。昨今、大雨等もあるということで、その状況に対応できないと、漏水の危険性は非常に高いものになります。第1回審査会でのご質問に対する事業者からの回答で、「過去10年間の時間最大雨量でも処理できる能力」と回答されております。また、矢板で区切った範囲内で集水した排水を有害物質排水処理施設に送る計画になっていますが、この矢板で区切った範囲にも一定量貯水できるとのこと、漏水する危険性を減らすよう工夫している工事計画であると聞いております。

[会 長] 他にありませんでしょうか。

続きまして、水質・底質のうち、存在時について事務局より説明をお願いいたします。

[事務局] (水質・底質－存在時について説明)

[会 長] ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

[委 員] 現状の水象の値が小さいので、影響は小さいとするのは反対のような気がしますが、これは正しい評価なのでしょうか。また、CODについて、水象が減る、要は流速が小さくなり希釈がされにくくなるということなのですが、そのあたりも考慮された予測結果になっているのか教えていただければと思います。

[事務局] 流速がもともと小さいという予測、評価結果ですが、確かに絶対値で言えば割合的に大きくなりますので、今の評価について事業者の見解を確認させていただきます。また、希釈につきましては恐らく考慮されているかと思いますが、準備書に記載はされておきませんので、こちらも事業者を確認させていただきます。

[会 長] 他にありませんでしょうか。

続きまして、地下水について事務局より説明をお願いいたします。

[事務局] (地下水について説明)

[会 長] ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

[委 員] 準備書59～60ページの地下水の調査結果で、定量下限値以下で書かれているものと、アンダーバーで書かれているものの違いを教えてください。

[事務局] 地下水の調査結果ですが、汚染があった周辺の調査結果になっております。数値の記載があるものはモニタリングを行っている物質であり、アンダーバーはそもそも分析を行っていないというものです。

[委 員] 環境影響を予測していくという中で、今後測定の前定はないのでしょうか。

[事務局] 準備書60ページの表は、1回汚染が見つかった井戸に対して、汚染があった項目を名古屋市環境局が定期モニタリングとして調査している結果になります。そのため、今回の事業とは全く関係ない調査であり、周辺にはこのような環境基準を超過しているデータがあるということをお示ししているものになります。

[委 員] 影響がないというふうに見えたので、質問させていただきました。

[会 長] 準備書213ページ表2-5-1と表2-5-2で平成29年度の大江川の地震・津波対策に伴う汚染土壌分布調査業務委託の調査結果が記載されています。準備書272ページ表2-6-1でも同委託の調査結果が記載されていますが、同じヘドロ層の上層覆土の結果かと思い

ますが、値が異なっております。試料が不均質、若しくは採取するタイミングにより違うものなのでしょう。

[事務局] 準備書 213 ページ表 2-5-1 は覆土層の土壌の調査結果になっております。次に、準備書 272 ページ表 2-6-1 は、地下水の調査結果になっておりますので、分析する対象が異なっております。

[会 長] ありがとうございます。

[会 長] 矢板が、汚染土を貫通して不透水層まで到達することで、周囲への拡散を防ぐというのは理解できますが、矢板を打つ際、汚染土を通過することで縦方向に汚染が広がるのではないかとといったことが心配になります。また、周囲に汚染が広がっていないかの担保といいますか、定期的な検査をずっとやって欲しいと思うのですがいかがですか。

[事務局] 矢板を不透水層まで差し込んで、地下水が広がらないようにするという計画になっています。今、ご懸念いただいているのは、ヘドロ層を通過するときその土が下層に入っていく、拡散していく可能性があるのではないかとしたことだと思いますが、一般的な土壌汚染対策工事等でも汚染土を通過して不透水層まで矢板を打つということは、一般的にある工事と聞いておりますので、しっかり対策して広がらないようにやっていただきたいと思います。

また、どこまでモニタリングを行うかについては、今回の工事で汚染を広げないというのは大前提でありますし、周辺の住民の方にも安心していただけるようなデータの取り方についてしっかり検討していただきたいと思いますので、モニタリングに対する考え方について事業者を確認させていただきます。

[会 長] 他にありませんでしょうか。

続きまして、地盤について事務局より説明をお願いいたします。

[事務局] (地盤について説明)

[会 長] ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

[委 員] 今回の予測は工事期間中のみを対象としていますが、予測結果にある沈下量は工事期間中に発生する沈下量だけなのか、逆に言いますと工事期間中に沈下が全て終わるという解析結果になっているのか、どちらでしょうか。

[事務局] 今回の予測結果がどのタイミングのものかというご質問かと思いますが、工事期間中に全て終わった後といった結果かと思います。

[委 員] 地盤の状況はすごく粘土層が厚い地盤でして、文章中にも幾つか圧密沈下って言葉が出てきますので、かなり長い時間を要して発生する沈下のことを検討されたかと思えます。準備書の記載内容ですと、長時間か即時の沈下か分かりませんので、どのような検討内容を教えていただきたいと思います。

次に、準備書 290 ページ表 2-7-3 で解析断面と盛土高がありますが、計画地盤高が +6.5m や +5.0m、それに対して圧密沈下後の完成高が 4.4m となっていますので、盛土自体が 1~2m 圧密沈下するということを解析されているのでしょうか。

[事務局] 2m 近く沈下するという状況を示しているかと思えます。

[委 員] かなり大きな影響が出てくると思いますが、予測結果の沈下は盛土直下ではなく、護岸背後で、さらにこの沈下はかなり影響ある気がします。特に事業予定地内が 2m 沈下するという結果に対し、事業予定地外が数 cm の限界値を超えるか超えないかの議論をしており、整合性といいますか、どれぐらい精緻に解析したのか、この解析の全体像が見える説明が必要かと思えます。

また、今回の解析結果の妥当性について、他の委員会等で検討されているかとは思いますが、今回の準備書だけではそこが読み取れず、さらに、資料編に記載のある地盤の

定数などもどのように決定したのか説明がないため、この辺りも補足していただけると良いかと思います。

[事務局] 予測結果がどのタイミングなのか、説明が不足しているのではないかなど数点ご質問いただきましたので、事業者を確認させていただきます。

[会 長] 準備書 293 ページ表 2-7-4 で、限界角に入っている部分が黄色いマークされていますが、これは範囲に含まれない方がよいということですね。

[事務局] 範囲に入っていると影響が考えられるというものになります。そのため、今回の予測結果では影響が出る可能性が高いということで、工事中に動態観測、また、事前の家屋調査などをしっかりと行い、影響を可能な限り回避する計画であると聞いております。

[会 長] 工事前、工事後を比較しないと工事による影響だったのか分かりませんので、事前調査はしっかり行っていただきたいと思います。

[委 員] 本事業は地震対策の一環かと思いますが、どのような地震動想定を採用されていますか。

[事務局] 今回の埋立ては、地震により有害物質が出てくるのを回避するため行う事業であると聞いておりますが、どのようなものを想定されているかについて、事業者を確認させていただきます。

[会 長] 他にありませんでしょうか。

続きまして水循環について事務局より説明をお願いいたします。

[事務局] (水循環について説明)

[会 長] ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

[会 長] 基本、ボックスカルバート内を水が通るので周りには漏れないと思いますし、不透水層があるため地下水への影響は少ないかと思います。しかし、矢板が汚染土を通過するということで、水漏れがないことは当然ですが、影響がないことを期待していますので、そのあたりも確認をお願いいたします。

[会 長] それでは、本日予定されておりました議題は以上となりますが、事務局から他に何かございますか。

[事務局] 長時間ありがとうございました。次回の審査会の日程ですが、年明け1月23日月曜日、午後2時から、本日同様ウェブでの開催を予定しております。内容は、準備書のうち、植物、動物、生態系、人と自然の触れ合いの活動の場の内容について予定しておりますのでよろしくお願いします。また、説明等足らない部分もあったと思いますので、準備書等ご覧いただき、お気づきの点ございましたら、事務局までメール等でいただければと思いますのでよろしくお願いします。

[会 長] それでは、これをもちまして本日の審査会を終了いたします。
皆さん、ありがとうございました。